

聖書宣教会通信

〒205-0017 東京都羽村市羽西2-9-3 Tel 042(554)1710 Fax 042(554)5562 振替・00150-6-34971

巻頭言

「そのあとに祝福を」

聖書宣教会会長 鞭木由行
生田丘の上キリスト教会牧師

聖書宣教会は、2004年度の終わりにモリヤ(株)への貸倒損失に関連する諸問題を公表して以来、この2年間、その責任の処理に追われてきましたが、ここに至って一番末席にいたはずの者が、気が付いた時には会長に就任せざるを得ないような、非常に不思議な事態になってきました。誰より私自身が、このような状況の推移に驚いています。私がこの問題を知らされたのは2年前のことでした。初めは憤りを覚えました。次に悲しみ、そして、今は共に悔い、かつ担って歩むように導かれています。昨年12月11日の責任役員会にて会長としての責任をお引き受けし、今後3年間の任期を全うしたいと願わされています。引き続き牧会をしながらですので、能力のみならず時間的にも自ずから限界がありますが、今後、聖書宣教会がどのように歩んでいくべきなのかを考えながら、引き続き再建に取り組みたいと願わされています。

モリヤ関連の諸問題は、2008年度末に最終報告を行うように努力を続けていますが、私に課せられていることは、むしろ今後の聖書宣教会のあり方を求めていくことです。まず最初に聖書宣教会の神学教育のカリキュラムを再検討したいと考えています。50年前に聖書神学舎として出発して以来この学舎が目指してきた方向性がいまいになっているのではないかと、という反省を私たちは共有しています。時代の荒波におかれた諸教会の必要にいかに応えるかという側面と同時に、神学教育の本来のあり方を見失わないように聖書神学の学びをさらに深めていきたいと願わされています。そのためには3年制か4年制かという問題も再度議論をし直さなければなりません。この点につきまして、また神学教育カリキュラム全般につきましても諸教会からの率直なご意見に耳を傾けたいと

思っています。

神学教育の充実と同時に、もう二つの面で改革が必要です。一つは規約面での見直しです。同じ過ちを繰り返さないという消極面だけでなく、さらに健全で透明性の高い組織を追求したいと願っています。同時に財政面での立て直しも急務です。聖書宣教会の働きが(主が許したまわば)今後も継続されていくために財政面でどのような取り組みができるのかを検討していきたいと願っています。そういうわけで、多くの課題を抱えておりますので、改めて諸教会からの祈りとご支援をお願いする次第です。

代表役員となるべく責任役員会に出席するために、私は滞在中の英国から一時帰国をいたしました。責任役員会に出席する当日の朝、ヨエルの預言のみことばに励まされました。

「しかし、今、——主の御告げ——

心を尽くし、断食と、涙と、嘆きとをもって、わたしに立ち返れ。」

あなたがたの着物ではなく、

あなたがたの心を引き裂け。

あなたがたの神、主に立ち返れ。

主は情け深く、あわれみ深く、

怒るのにおそく、恵み豊かで、

わざわいを思い直してくださるからだ。

主が思い直して、あわれみ、

そのあとに祝福を残し、

また、あなたがたの神、主への穀物のささげ物と注ぎのぶどう酒とを残してくださらないとだれが知ろう。(ヨエル書2章12-14節)



聖書神学舎教師会議長 津村俊夫

多くの方々のお祈りによって支えられていることをひしひしと感じさせられている昨今です。主のみわざである神学教育は、それを託されている者たちの信仰と、背後で支えてくださる方々の祈りがなくては前進しません。数日前のことでした。一枚の葉書がある地方のお会したこともない兄弟達の連名で送られてきました。そこに、「今朝の祈り会で聖書宣教会のためにお祈りしました」と記されていました。何よりも大きな励ましでした。

今は、卒業式の準備と、来年度の入会準備が同時に行われていて、一年で一番忙しい時期にかかっています。今回は、卒業・修了予定者数は10名で、入会者は4名です。マイナスからの再出発ですが、このような中で、あらためて「主の恵み」によって導かれることを学ばせていただくのだと思います。生きて働いておられる主が確かに聖書宣教会を導いておられること

と信じて、なすべき当然のことを忠実に行っていきたいと思っています。

卒業予定者達の進路も少しずつ導かれていますが、宣教の第一線に遣わされる兄弟達が、ただ主を恐れ、主と主の教会にお仕えていくことが出来るようにお祈りください。

「真に神学舎らしい」教育とは何か、ここでしか学べないことは何かを、教師会は引き続き主の御前に求めていきたいと願っています。この度、17年間専任教師であり、また2年前まで教師会議長であった内田和彦師が、4月から教会での奉仕に戻ることになりました。授業はこれからも担当していただきますが、教会の現場からの新しい貢献に期待したいと思います。病い（筋萎縮性側索硬化症）の中にある遠藤嘉信師のためにも引き続きお祈りください。

皆様の、主にある祈りとご支援を心から感謝して。

音楽を通して福音を宣べ伝えるために

矢吹綾子

「主は、私の口に、新しい歌、われらの神への賛美を授けられた。多くの者は見、そして恐れ、主に信頼しよう。」（詩篇40篇3節）

あるチャペルコンサートでオルガン演奏の奉仕をさせていただいた数日後、レッスンをしてくださった岳藤豪希先生は私に、「演奏を通して福音を伝えることができましたか」とおっしゃいました。上手に演奏できたかどうかではなく、伝えるべきことが伝えられたかどうかを問われました。音楽を用いて福音を伝えるということは、作品のもとになるみことばを深く味わい、理解し、御霊の働きにより頼まなければ決してできないことだと思われています。取るに足りないこの器を、主のために用いていただけるようにと祈るばかりです。

いつも教会音楽科のためにお祈りくださりあ

りがとうございます。昨年、新教会音楽科としての初めての卒業生を送り出しましたが、中部地方において様々な働きを担っているとの報告を受け、主の働き人として用いられていることを感謝しております。現在、卒業予定の3年生は、2月17日の“教会音楽のひととき”まで、演奏する詩篇73篇21～28節より作曲した卒業作品『神なる主を私のさけどころとし』の指揮やオルガン独奏の準備に励んでいます。なかなか教会音楽科の新入会者が与えられないという厳しい現実ではありますが、主のみこころを求めつつ歩いていきたいと思っています。福音宣教のため、音楽を用いて主に仕えたいという召命が与えられる方が、教会音楽科に導かれるようにお祈りくださいますようお願いいたします。

「仕える者となるために」

聖書神学舎第15期卒 沼田茂広

小さな者に仕える

私は聖書神学舎の卒業のスピーチで「獅子のようにして入学し、小ネズミのように震えながら出て行く」とあかししました。

学ぶことに鈍い私には学舎の学びとアルバイトとの生活は厳しく、ついに胆嚢炎を患いました。献身者失格の思い強く、ついに校長に休学の申し出をしたのでした。ある日、教師会から寝学生の私にお見舞いの「金一封」（小額ではない）が届けられました。そこで私にとっては厳しい学びを課する教師たちのほんとうの心に触れて泣きました。私が神学舎で学んだのは、私のような小さな者にも仕える教師たちの姿勢でした。今も変わらず、仕えておられる神学舎の教師たちに対して感謝の心でいっぱいです。

教会に仕える

私が神学生の時、「卒業生から有名な指導者は出ていないのでは」と問われたとき、校長が「教会に仕えるための神学校ですから」と答えられたと聞きました。このときの会話の詳細はわかりませんが、これが神学舎のめざす卒業生（奉仕者）の姿であり、私自身のあるべき姿であると教えられました。

教会に仕えるための神学校であれば、その責任ある教師が教団や教会の群れの指導者的立場になるということは、神学校が教会に仕える姿勢を失う危険性があるのではないかと考えさせられております。教会に仕えるということはどういうことなのか、これからも私自身が日々思いつく課題です。

聖書宣教会のために祈ってくださる皆さまに心から感謝しています。

近況と祈りの課題をお届けします。

- 卒業式が3月12日に行われます。本科から7名と教会音楽科から1名が卒業、シニアコースを2名が修了して、それぞれの場で主に仕えるために遣わされてまいります。
- 2007年度の入会予定者は本科に4名となっています。新年度は教会音楽科には在籍研修生がいなくなります。
- 内田和彦先生が今年度末で専任教師の立場を退いて、これからは教会の現場から教えに来てくださることになりました。
- 遠藤嘉信先生は、ALS（筋萎縮性側索硬化症）との非常に厳しい闘いの中で主の平安に支えられていますが、特別の助けが必要です。続けてお祈りください。
- 新しい年度も聖書宣教会が、主のみこころに従順であり、小さなことに忠実である歩みを全うできるようにお祈りください。
- 鞭木先生の会長としての奉仕を、主が祝して、主のために用いてくださるように。
- 教師会議長の津村先生をはじめ教師、講師の働きのうえに主の助けがあるように。
- 研修生、また彼らを背後から祈り支えてくださる方々のうえに主の顧みがあるように。
- 聖書宣教会の働きを祈って支えてくださる主の民がさらに加えられるように、また主がその奉仕をねぎらって祝してくださるように。
- 教会や地域の祈り会などから祈祷課題のご請求をいただくことがあり、感謝しています。ご希望がございましたら事務局までお知らせください。

今年7月3日(火)、新約聖書学の世界的権威であるリチャード・ボウカム先生(英国セント・アンドリューズ大学教授)が聖書神学舎を訪れ、特別講演をしてくださいます。詳細は後日、ご案内申し上げます。

2007年度 聖書宣教会講座案内

聖書宣教会では今年も次のようなプログラム、講座を予定しています。5月12日(土)のオープン・デイ「公開授業」を始め、聖書科、教会合唱講座はどなたでも参加できます。ご利用をお待ちいたします。

オープン・デイ — 5月12日(土) —

	I ~ II (8:20~10:00)	(10:05~10:35)	III ~ IV (10:50~12:30)
本科1年	ギリシャ語 (横山昌英)	チャペル (鞭木由行)	旧約通論 (久利英二)
本科2年	新約各書 (遠藤勝信)		ヘブル語 (松本任弘)
本科3年	旧約釈義II (津村俊夫)		牧会学IV (赤坂泉)
本科4年	中間時代史 (久利英二)		教理史 (鞭木由行)

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

第33回 聖書神学舎夏期研修講座

期 日：7月11日(水)～13日(金)

場 所：聖書宣教会

対 象：牧会者とその配偶者

テーマ：「みことばを語るために—釈義から説教へ」
上記の主題についての「基調講演」とともに、「講義と演習」を行います。講義と演習では、予め申請のあった希望に基づいてクラス分けをし、原典(ヘブル語、ギリシャ語)聖書釈義から説教を語るまでを、ごいっしょに学びたいと思います。

講 師：鞭木由行、松本任弘、津村俊夫、内田和彦、遠藤勝信、岸本紘、赤坂泉

(このほか、聴講制度、教会音楽舎卒業生対象の継続教育講座があります。詳細は事務局まで)

第23回 教会音楽夏期講習会

期 日：7月26日(木)～28日(土)

場 所：聖書宣教会

対 象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方

テーマ：「みことばと賛美」

内 容：講義(教会音楽の基本的理念、主題講義、聖書講義、賛美歌学(賛美の歌を学ぶ))
講義と演習(宗教改革期の合唱作品、礼拝と奏楽)
分科会(聖歌隊指導法、歌唱法、声楽、オルガン、作曲(入門))
教会音楽の夕べ

講 師：聖書宣教会教師・講師

聖書科(金曜日 10:30～12:10)

前 期：「出エジプト記」(伊藤暢人)

4月13日～10月12日(15回)

於 ぶどうの樹キリスト教会(四ッ谷)

後 期：「ヨハネの黙示録」(横山昌英)

10月26日～2月29日(15回)

教会合唱講座(火曜日 19:00～21:00)

前 期：「主に歌え。御名をほめたたえよ。」(飯島千雍子)

4月10日～10月9日(10回)

於 立川駅前キリスト教会

後 期：10月～3月(10回)

2007年度 聖書宣教会主要年間予定

2007年

4月5日(木) 入会式
4月7日(土) 前期開始
5月12日(土) オープンデイ
5月18日(金) 祈りの日
6月6日(水)～6月7日(木) 特別講義
6月30日(土)～8月29日(水) 夏期調整期間
7月11日(水)～7月13日(金) 聖書神学舎夏期研修講座
7月26日(木)～7月28日(土) 教会音楽夏期講習会
7月 中旬～ キャラバン伝道
8月30日(木) 帰寮日
9月5日(水) 前期再開
10月12日(金) 前期終了
10月13日(土)～10月24日(水) 秋期調整期間

10月16日(火)～10月17日(水) リトリート
10月25日(木) 後期開始
11月10日(土) 第25回賛美礼拝
11月15日(木) 祈りの日
12月16日(日)～1月4日(金) クリスマス調整期間

2008年

1月5日(土) 後期再開
2月11日(月) 信教の自由を守る日
2月18日(月) 入会試験
2月23日(土) 教会音楽のひとつとき
3月6日(木) 卒論発表会
3月8日(土) 後期終了
3月10日(月) 第49回卒業式

編集後記・・・

今の時代に、福音を携えて立つ者が、賢明なふるまいと知恵あることばをもってその働きをなすことの重要性を思います。

この国、この時代を主があわれんでくださいますように。主の民を祝福して主のために働かせてくださいますように。(A)